

# 日系外国人1000人雇い止め

## シャープ、亀山の下請け

シャープの亀山工場(三重県亀山市)で働いていた日系外国人作業員のうち千人が、今年に入り集中的に雇い止めされたことが三十日、シャープの三次下請け会社で雇用主の「トラストライン」(亀山市)への取材で分かった。ごく短期の契約更新が繰り返されてきたが、シャープ側の生産縮小の影響で更新されなかったとみられる。不安定な外国人労働者の実態が浮き彫りになった。

政府は外国人労働者の受け入れを拡大する入管難民法などの改正案の国会での成立を目指す。識者からは国内での労働環境整備を優先すべきだとの指摘が出ている。

労働組合「ユニオンみえ」には雇い止めされた外国人からの相談が相次ぎ、約四十人が加入した。神戸紅書記次長は「立場の弱い外国人を使い捨てている」と批判。三重労働局の担当者も「春ごろから相談が殺到した」と話している。トラスト社の担当者は「シャープの都合で仕事が減り、十月までにトラスト



社だけで約四百人が辞めた。他の三次下請け三社と合わせ、今年に入り雇い止めは約千人に上る」と説明している。

担当者によるとトラスト社も含めた四社は、シャープの二次下請け会社の要請を受け、四、五年前からポルトガル語の求人誌などで作業員を募集。昨年末のピーク時には日系ブラジル人やペルー人ら約二千人を雇っていた。シャープの減産に備え主に約二万月の雇用契約を結

んでおり、五月の大型連休前後が雇い止めのピークだった。現在、トラスト社が雇用しているのは約百人。他の三社に雇われている人はいないという。

シャープの広報担当者は「工場の作業員とは直接雇用契約を結んでいない。雇い止めにコメントする立場にない」としている。亀山工場では液晶ディスプレイを生産している。

外国人労働者問題に詳しい四方久寛弁護士によると、言葉の壁がある外国人は正規の職に就くのが難しい。募集や労務管理は外国人の母国語で行う専門の下請け会社が担い、悪質業者が入り込むこともあるという。

四方氏は今回の雇い止めについて「元請けにとって都合のいい雇用調整だが、法律的な対策がないのが現状だ。外国人労働者の受け入れ拡大が議論されているが、まずは雇用環境を整えるべきだ」と訴える。